

ESGコーポレートDay 説明資料

2022年3月4日

太平洋互業株式会社

1. 会社概要・歴史
2. 成長を支える技術
3. 競争力の源泉となる人財
4. サステナビリティ経営

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

本社所在地	岐阜県大垣市久徳町100番地
創業	1930年（昭和5年）8月8日
代表者	代表取締役社長 小川信也
資本金	73億1600万円
株式	東証・名証一部上場 (2022年4月～プライム市場へ移行)
事業内容	自動車部品、電子機器製品等の 製造ならびに販売
従業員数	4,800人（個別2,000人）
長期発行体格付	「A- 安定的」



持続的な成長により、新たな価値創造と社会への貢献をめざす

ブランドスローガン

思いをこめて、あしたをつくる

~Passion in Creating Tomorrow~

PACIFIC GLOCAL VISION

- ・ステークホルダーに信頼され、地域社会に根ざし、共存・発展できる真のGLOCAL企業
- ・持続可能な社会に向けて、コア技術を活かし、新事業・新製品・新技術を提供し続ける企業
- ・社員の新しい発想や挑戦を大切に、仕事と生活の調和が実感できる企業

主な事業内容



自動車向けをメインに、プレス・樹脂製品事業、バルブ製品事業を柱として展開

バルブ製品事業

売上高 457億円 営業利益 49億円

主要製品：タイヤバルブ
空調用等バルブ
TPMS

457億円
31%



プレス・樹脂製品事業

売上高 1,045億円 営業利益 39億円

主要製品：自動車用プレス・樹脂製品

1,045億円
69.5%

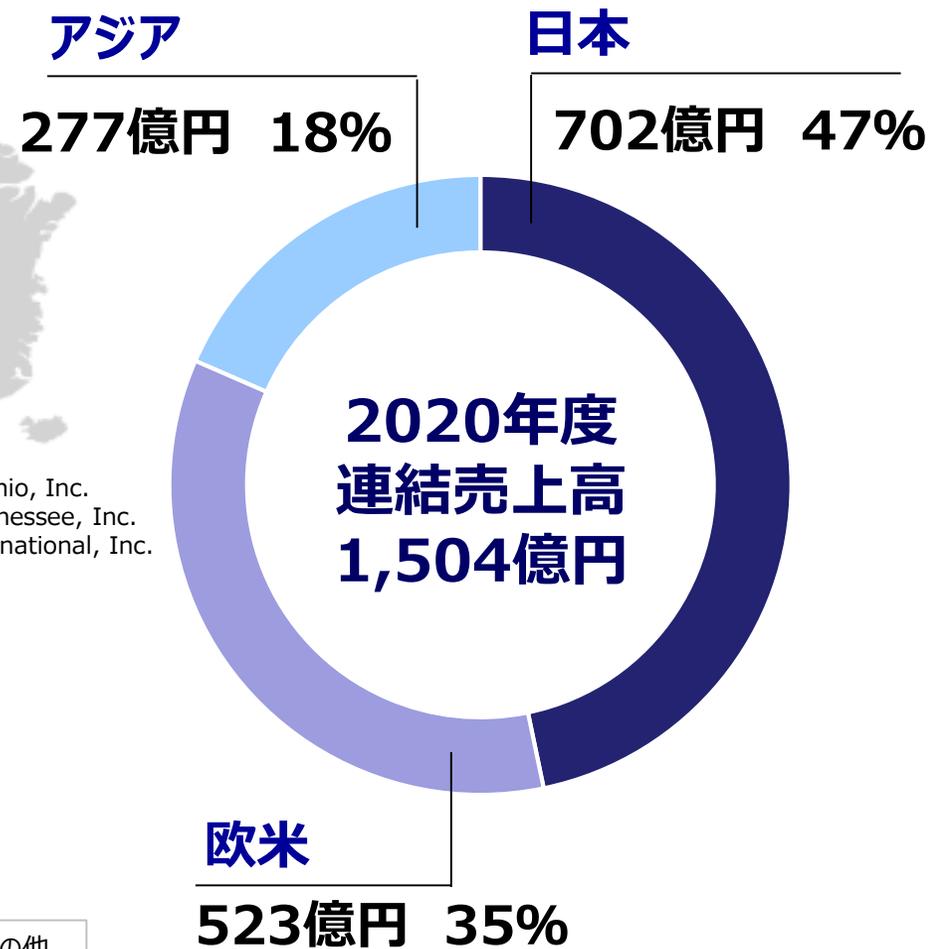
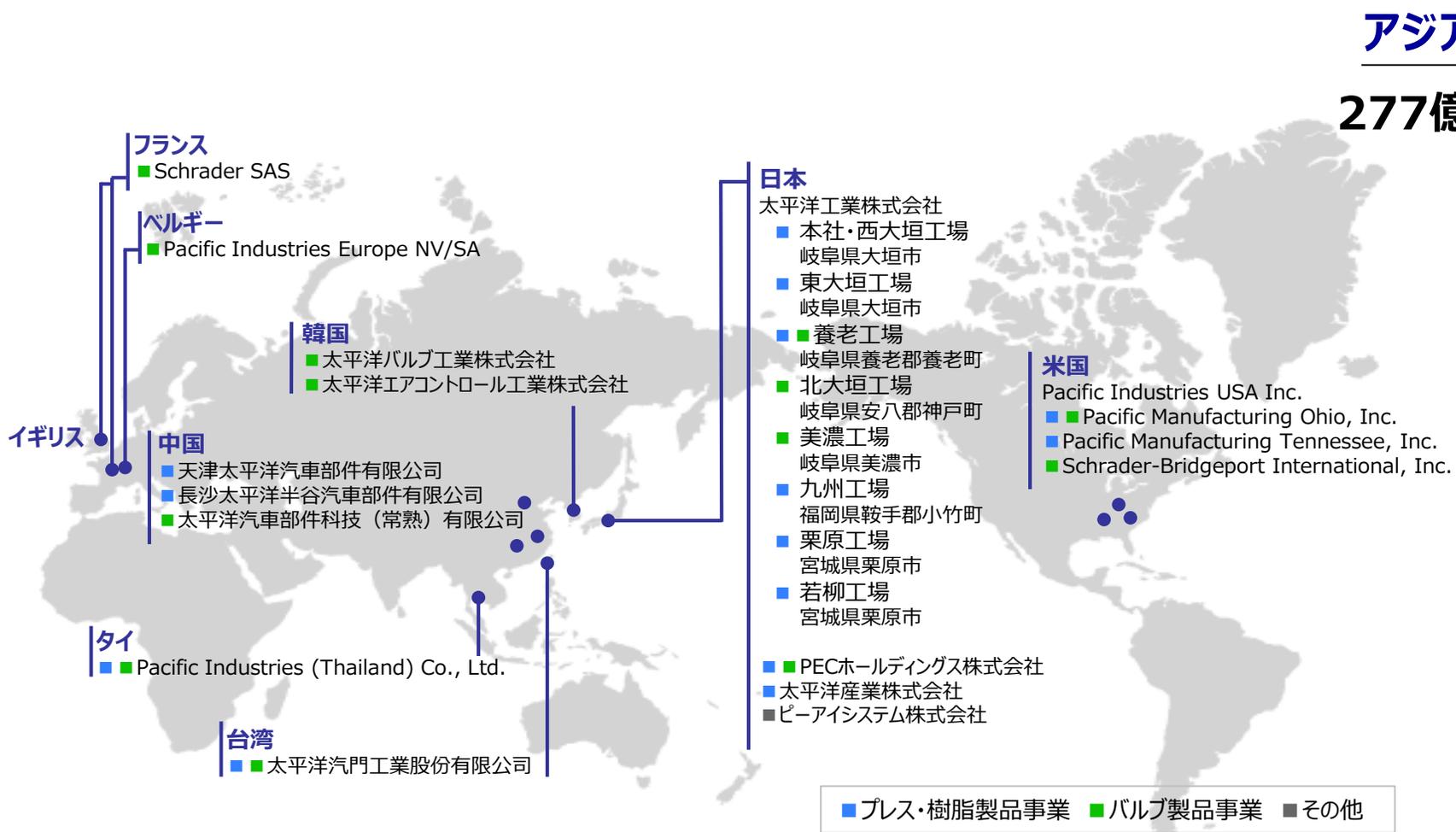


2020年度
連結売上高
1,504億円

グローバル展開



国内8拠点3社・海外8カ国13社で事業展開

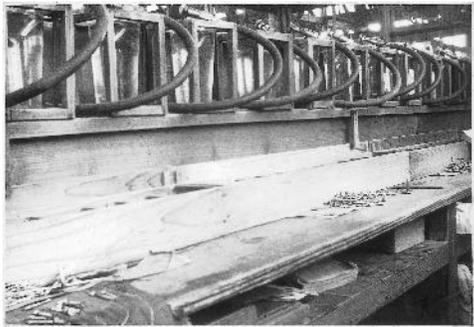
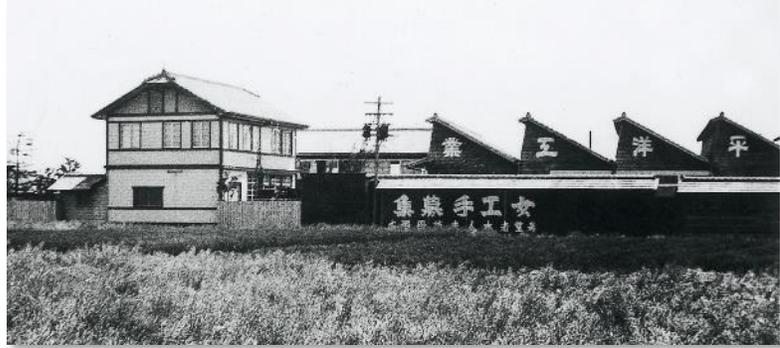


太平洋工業グループのあゆみ



バルブコアの国産化をめざして創業、プレス事業も加え事業を拡充

1930年 自動車用バルブコアで創業



自社開発の空気漏れ検査機



バルブコア

バルブコアは、タイヤに空気を入れるバルブの芯として空気圧を保持する部品

1949年 プレス事業スタート



トヨペット
ホイールキャップ



ラジエータグリル、オイルパン、ラゲージ
ヒンジなどを生産

国内工場・事業拡充



西大垣工場（岐阜県大垣市）

- 1960年 西大垣工場を建設
大型プレスからメッキ・塗装まで行う
一貫体制を確立
- 1970年 制御機器事業
- 1972年 北大垣工場建設
- 1977年 美濃工場建設
タイヤバルブ・バルブコアシェア拡大に伴う
生産能力増強とリスク分散のため2拠点化
- 1979年 樹脂事業
- 1981年 電子機器事業
- 1982年 プレス用金型事業

太平洋工業グループのあゆみ



海外進出、次世代バルブの開発を経て、グローバル企業へ成長

1984年 初の海外拠点設立



太平洋汽門工業股份有限公司（台湾）

当社初のバルブ事業の海外拠点として、台湾に「太平洋汽門工業股份有限公司」を設立その後、韓国、米国、タイ、中国、ベルギー、フランスへと拠点を拡大

2000年 TPMS送信機生産開始



TPMSクリーンルーム



TPMS送信機

長年培った技術を複合し、バルブに付加価値をつけた高機能バルブとして開発

2018年 Schraderバルブ事業取得



Schrader-Bridgeport International, Inc.
(アメリカ)



Schrader SAS
(フランス)

2018年8月、アメリカ・フランスのSchraderバルブ事業を取得日本・アジア・北米・欧州に生産・販売拠点を有する世界4極体制を構築

太平洋工業の歴史に刻まれるイノベーションのDNA

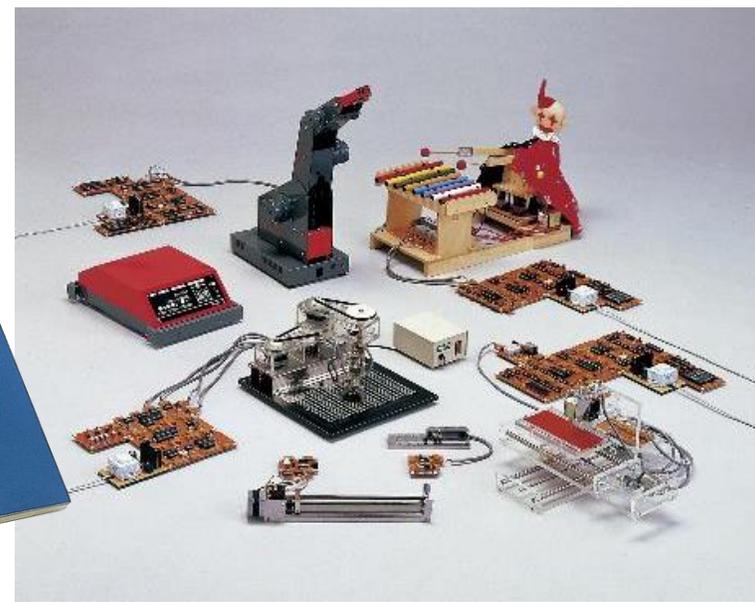
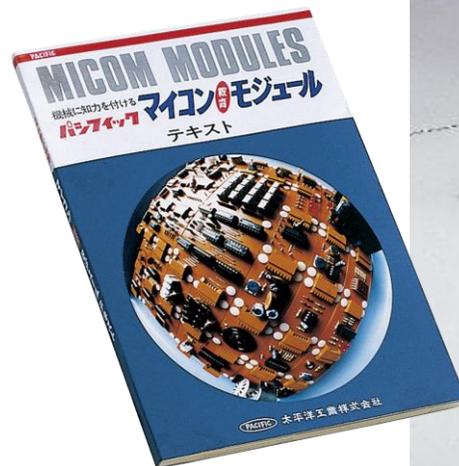
トーストサンドイッチ自動販売機 (1975年)

食品機器分野に挑戦するために当社設計の自販機を開発
今でも日本に数か所稼働しており、熱心なファンも存在



パシフィックマイコン教育モジュール (1982年)

当初、社内マイコン技術者育成を目的にマイコン教材を作成
その後、初心者にも理解しやすいと商品化



1. 会社概要・歴史
2. **成長を支える技術**
3. 競争力の源泉となる人財
4. サステナビリティ経営

太平洋工業グループの価値創造モデル



グループ一帯となり、社会から必要とされる企業をめざす

次世代モビリティ社会において、
豊かな生活と環境に「ものづくり」で貢献

社会課題

- 気候変動
- 資源の枯渇
- 水資源の危機
- 生物多様性
- 人権問題
- 健康への被害
- 人口爆発と少子高齢化
- 交通事故

リスク

- 自然災害と感染症
- 少子高齢化
- 国内外の政治経済情勢
- サイバーセキュリティ
- グローバル競争の激化
- 人材確保・育成
- 環境課題(気候変動・資源・水)

機会

- 安全・環境規制の強化
- 自動車市場の成長
- 自動車の構造転換
- AI・IoTの活用
- 省エネ・軽量化
- カーボンニュートラル

社内・社外の経営資源

財務資本	健全かつ安定した財務基盤
製造資本	生産設備・金型・ものづくりノウハウ
知的資本	開発・評価・解析技術
人的資本	国内外のグループ人材
社会・関係資本	ステークホルダーとの連携
自然資本	原材料・エネルギー・資源

プレス・樹脂事業

新規事業

バルブ事業

経営基盤

経営コーポレート機能

強み

プレス・樹脂事業

- 軽量・高剛性を実現する超ハイテン材プレス成形技術
- EV技術・フィルム加飾技術・NV性能制御技術

バルブ事業

- バルブ：世界No.1シェアと世界4種の生産・販売体制
：流体制御・電動制御技術と多彩な製品ラインアップ
- TPMS：車載電装技術・圧倒的高品質と世界4種の生産・販売体制

新規事業

- 無線通信技術・センシング技術・AI技術

太平洋工業グループのめざす姿

ブランドスローガン

思いをこめて、あしたをつくる

~Passion in Creating Tomorrow~

PACIFIC GLOCAL VISION

めざす企業像

ステークホルダーに信頼され、地域社会に根ざし、
共存・発展できる真のGLOCAL企業

持続可能な社会に向けて、コア技術を活かし、
新事業・新製品・新技術を提供し続ける企業

社員の新しい発想や挑戦を大切にし、
仕事と生活の調和が実感できる企業

サステナビリティ経営 4つの柱

製品を通じた社会・顧客課題の解決

人材の尊重と活躍

ステークホルダーとの信頼醸成

環境負荷の極小化

15の
マテリアリティ

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

中期経営計画
OCEAN-22

信頼・革新・挑戦

PACIFIC VALUES
「夢と挑戦」「信頼と感謝」

価値創造関連 ハイライト

財務ハイライト (2020年度)

売上高 / 1,504億円
営業利益 / 89億円
ROA / 4.2%

非財務ハイライト

国内外のお客様から、
数々の表彰を受賞 →p26
人権方針策定 →p37
健康宣言 →p38
行動ガイドライン &
仕入先CSRガイドライン
自己点検実施 →p24,25
廃棄物を大幅に削減 →p36

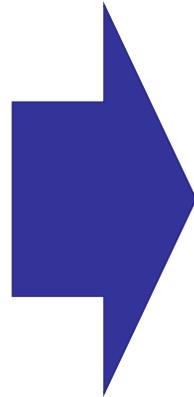
KPIは19,20ページ

CN、電動化に伴うニーズの変化を成長機会と捉え、開発を推進

カーボンニュートラル

LCA評価

電動化
拡大



注力分野

超ハイテン

軽量化と
部品製造工程の
CO2排出低減

防音・防振

エンジン音が無くなり
新しいノイズ発生

流体制御

モーター化による
各種システム変更

重点施策

プレス

- ・超ハイテンプレス成形の領域拡大
- ・構造解析・性能評価技術向上
- ・ホットから冷間への置換え提案

樹脂

- ・発泡ウレタン技術の発展
- ・電動化ノイズ対策製品開発

バルブ

- ・BEV・FCEV向けバルブ開発
- ・ヒートポンプシステム用
制御バルブ開発・拡販

プレス・樹脂事業の主要製品と技術領域



車体強度・剛性を確保するボデー骨格部品、高意匠・高機能の樹脂部品などを供給

高機能製品

EV化ノイズの防音・防振
GFRP・新素材開発

高意匠樹脂

メッキレス
フィルム加飾

防音・防振

ウレタン発泡技術

軽量化・骨格部品

衝突解析技術による
ボデー構造提案

1470MPa材冷間プレス
量産技術確立

アルミ

FSW・各種接合技術

大物ボデー骨格
ASSY

ホットスタンプ
冷間超ハイテンプレス

サブASSY

機能部品



主要顧客：トヨタグループ
他日系カーメーカー

樹脂成形技術

アルミプレス

プレス単品
小物プレス

鍛圧プレス

プレス成形技術
金型・溶接・塗装・成形

コア技術

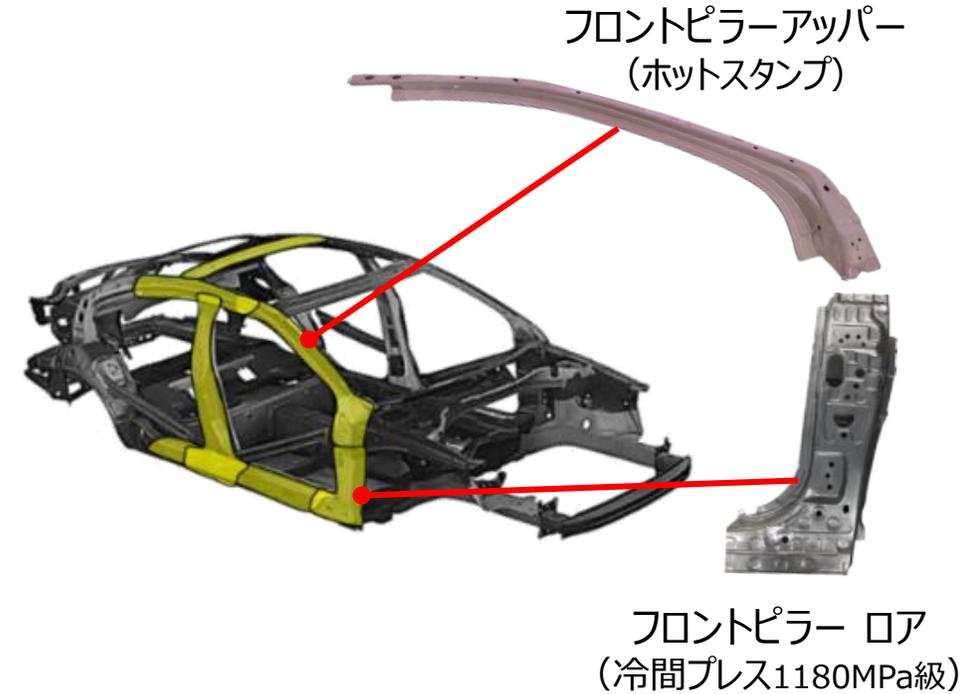
Now

Future

超ハイテンプレスとは

超ハイテンプレス成形の量産技術と軽量化提案で拡販推進

超ハイテン材 プレス成形	工法	特徴
	冷間プレス	<ul style="list-style-type: none"> 大型プレス機で堅い素材を成形 伸びにくく成形難しい、高い技術力要 生産性高、電力使用量少
ホットスタンプ	<ul style="list-style-type: none"> 素材を加熱、やわらかい状態で成形 成形自由度高、複雑な形状も成形可 生産性低、電力使用量多 	

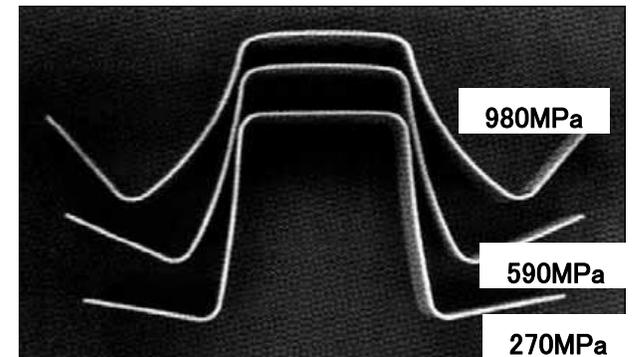


超ハイテン材プレス成形技術の変遷



超ハイテン

ハイテン



スプリングバック

プレス製品：冷間超ハイテン

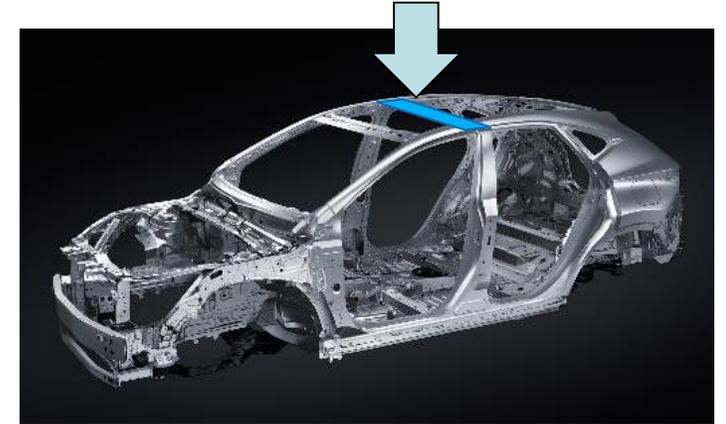
超ハイテン冷間プレス工法を究める・・・技術の特徴と、量産を支える人財

1470MPa材 冷間プレス部品

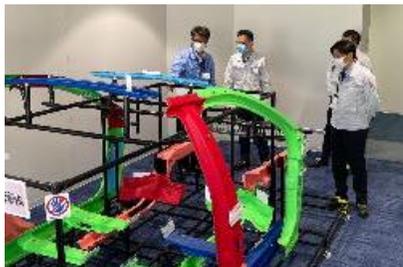
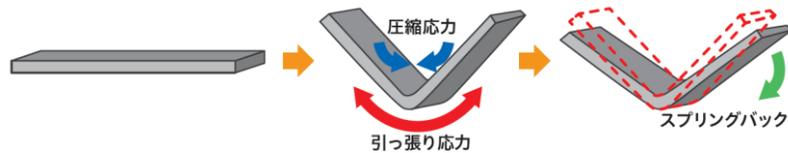
- ・「ストレスリバーブス工法」により、スプリングバックを抑制
- ・1.5G材で湾曲した複雑形状の量産化に成功
- ・従来比22%減の軽量化



ルーフセンターラインフォースメント



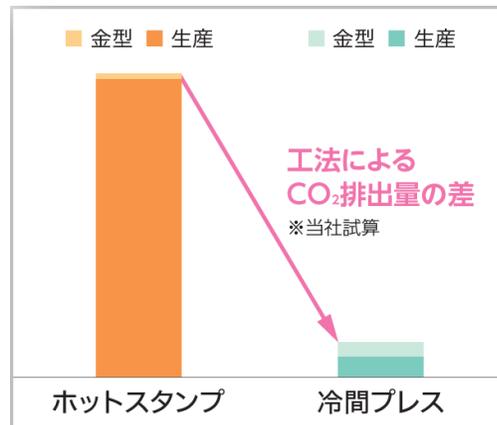
レクサスNXに採用



ボデー構造解析技術により、衝突安全性と車体軽量化に貢献

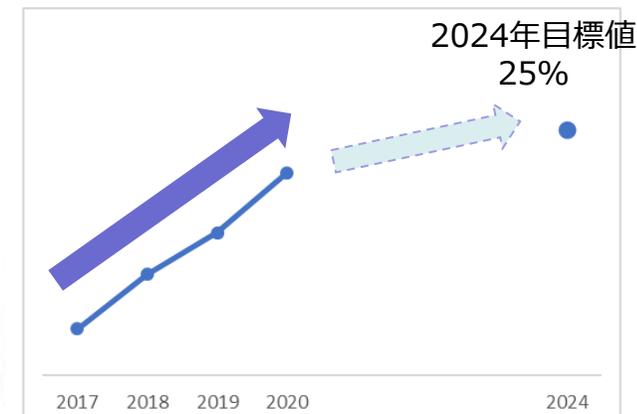
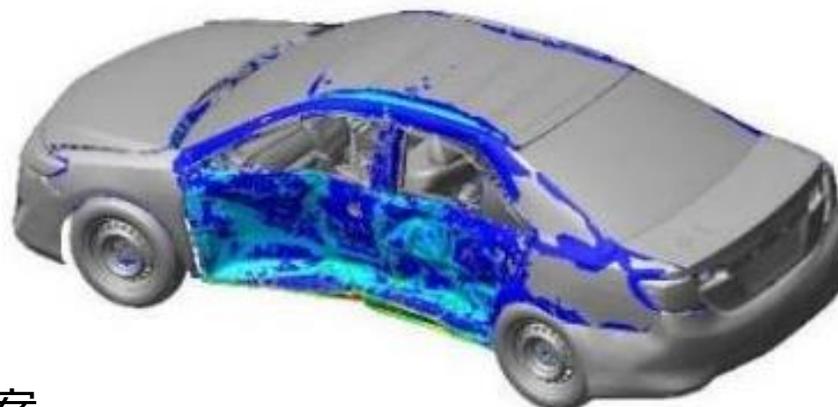
骨格プレス部品の領域拡大

- ・ホットから冷間への置き換え提案推進
- ・1470MPa材 冷間成形・量産技術追究
- ・大物ボデー骨格ASSY部品の拡充



構造解析・提案力強化

- ・シミュレーションによる衝突性能の解析
- ・要求性能、設計要件に製造要件を加えた高品質な製品設計
- ・軽量、低コストの最適ボデー構造を提案



(KPI) プレス製品に占める超ハイテン製品売上高比率推移

樹脂製品：ウレタン発泡成形技術

エンジンカバーから防音・防振技術へ進化、電動化で事業領域拡大をめざす

製品・技術の特徴

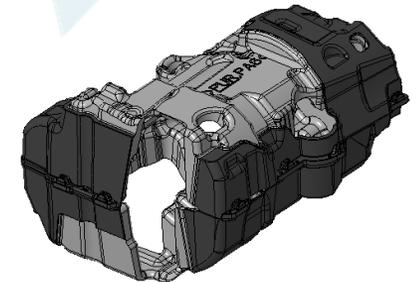
- ・発泡ウレタンによる軽量化と防音・防振性能向上
- ・専用材料開発、生産時の金型温度コントロールでデザイン性、組付性をクリア
- ・基材、吸音材の一体化と塗装レスによる低コストを実現
- ・軟質発泡材採用により、歩行者保護性能向上
- ・デザインから設計、生産までの一貫体制

電動化ノイズ対策での採用をめざし製品開発推進

オールウレタンエンジンカバー

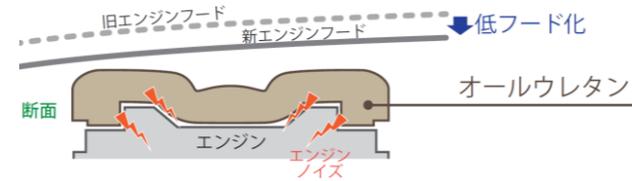


エンジン音がなくなり新しいノイズ発生



電動コンプレッサー用防音カバー

2017年
ウレタンのみで構成
軽量化、防音性能向上



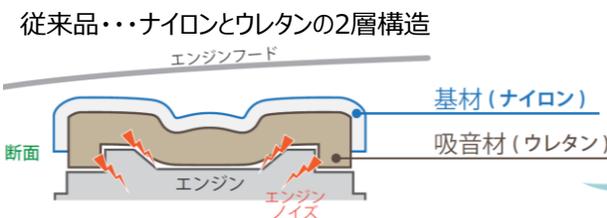
2006年
世界最軽量（当時）
エンジンカバーとして
LS460に採用



1979年
樹脂事業の開始

1991年
エンジンカバー
生産開始

2004年
デザイン委託
開始



従来品・・・ナイロンとウレタンの2層構造
エンジンフード

基材(ナイロン)
吸音材(ウレタン)

従来比
質量20%減
コスト20%減

樹脂製品：フィルム加飾技術

環境に優しいフィルム加飾技術で競争力強化

製品・技術の特徴

- ・軽量化
 - ・デザイン性向上
 - ・空力性能向上
 - ・リサイクル性向上
- ▶
- ・燃費向上
 - ・快適性向上
 - ・商品力向上

ホイールキャップ



1949年 最初のプレス製品として、トヨペット 鉄ホイールキャップを受注

樹脂化



1979年 ホイールキャップの樹脂化を契機に樹脂事業を開始

高機能化

ホイール加飾パーツ

特徴：アルミホイールに取り付け空力性能・意匠性向上
デザインから設計・生産まで受注



アルミホイール



樹脂加飾パーツ



アルミホイール



ホイールキャップ

ホイールキャップ国内シェア 約6割
海外でも多くの日系メーカーに採用

品目拡大
高意匠化

フィルム加飾オーナメント

特徴：フィルムインサート成形による
めっきレス加工で、100%リサイクル可能、
コスト低減と意匠性を両立



センターオーナメント

オーナメント国内シェア 約6割
海外でも多くの日系メーカーに採用

樹脂製品：新型ランドクルーザーに採用



新型ランドクルーザーに当社の樹脂製品が複数採用

エンジンカバー



- ・エンジンからの放射音を低減
- ・エンジンルームの装飾のために意匠性を持たせた製品
- ・デザインから生産まで担当



センターキャップ



- ・樹脂成型と同時に、フィルムに印刷された絵柄を製品へ転写する「インモールド転写工法」を採用

GFRPエンジンアンダーカバー



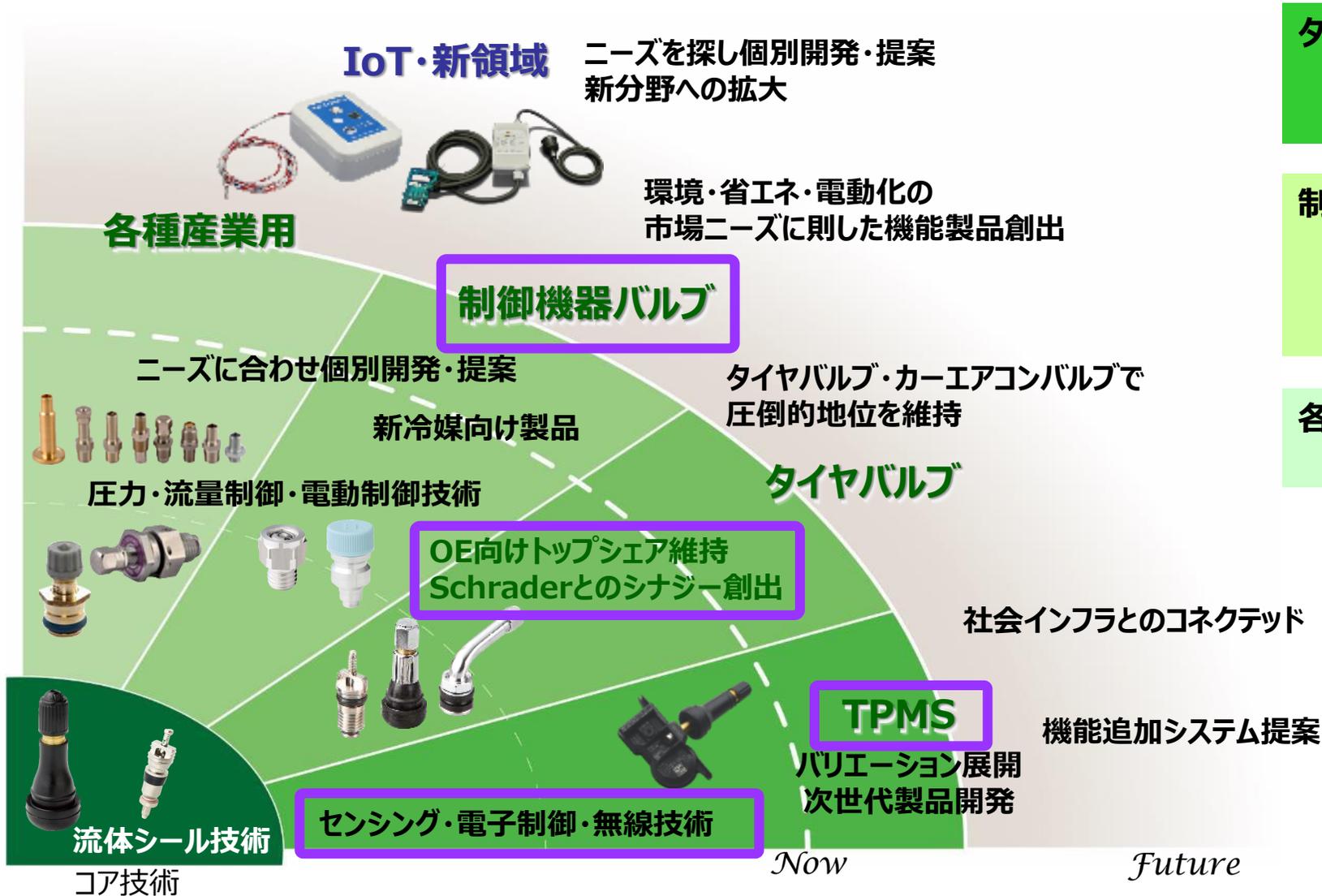
- ・SUV系車両では世界初採用
- ・従来品7.3kg→1.7kg(▲76%)の軽量化
- ・日刊工業新聞社【超モノづくり部品大賞】「モビリティ関連部品賞」受賞

※GFRP (Glass Fiber Reinforced Plastics)

バルブ事業の主要製品と技術領域



バルブコアで培った流体シール技術をコア技術として各種バルブを開発・製造



タイヤバルブ

- ・シェア：国内100%、海外約50%
- ・主要顧客：国内外タイヤメーカー

制御機器バルブ

- ・チャージバルブ・リリーフバルブなど
- ・主要顧客：カーエアコン用
コンプレッサーメーカー、配管メーカー

各種産業用バルブ

- ・産業機械用、航空機用など



アルミダイカスト製品
(韓国生産)

バルブ製品：FCEV用リリーフバルブ



タイヤバルブで蓄積した技術でカーエアコン用バルブへ展開、更なる高機能バルブへ進化

タイヤバルブ・バルブコア

グローバルシェア
約5割



技術応用
品目拡大

チャージバルブ

1970年代
カーエアコン用の冷媒用バルブ・バルブコアを開発・量産



技術応用
品目拡大

グローバルシェア
約5割

リリーフバルブ

1995年
カーエアコンシステム内の
圧力異常を防ぐ安全弁として開発・量産開始



グローバルシェア
約8割

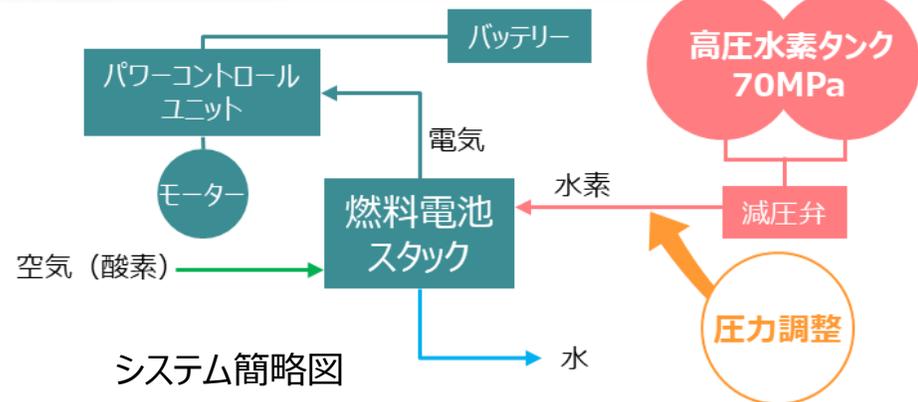
シール技術
圧力・流体制御
技術を結集
大型化・耐久性UP

FCEV水素燃料用リリーフバルブ

2014年
初代MIRAIに採用
2021年
新型MIRAIに改良品を継続採用



FCEVの安全の要として、
水素配管内システムを
保護する安全弁機能と、
圧力調整機能を備えたバルブ



電動化に向けた制御バルブ開発・拡販



PACIFICとSCHRADERの3極協働で開発・拡販を加速

- ・ヒートポンプシステムの移行・拡大で、電動膨張弁など制御バルブのニーズ増加
- ・各地域顧客へプロトタイプ納入、評価を推進

フランス:SCHRADER



要素技術共有による開発効率化、
スピードアップ



BEV向け電動膨張弁

日本



日本開発品を米国メーカーへアピール

アメリカ:SCHRADER



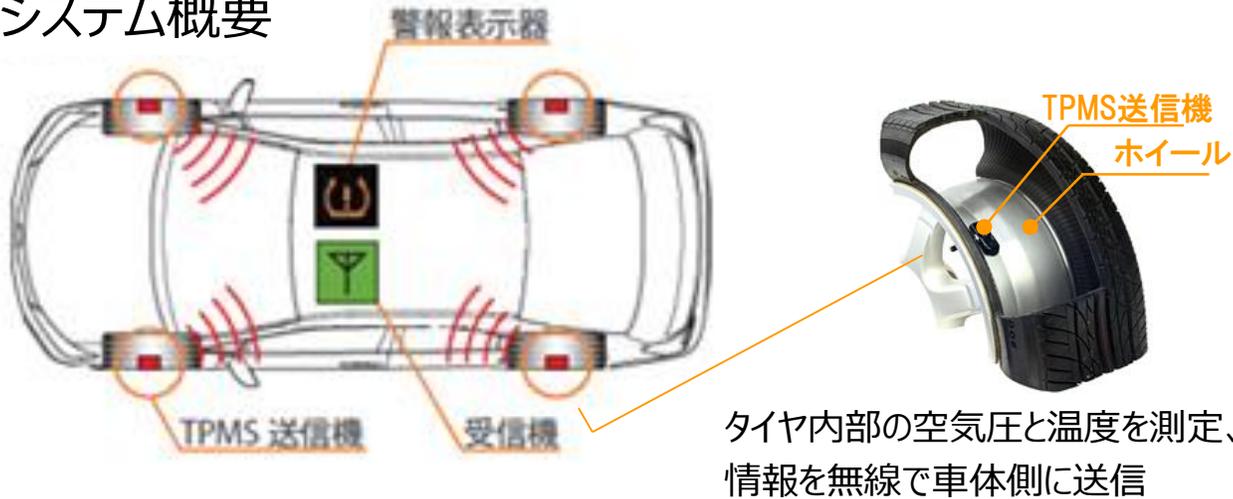
SAE展示会で膨張弁をアピール

- ・日・米・欧3拠点体制で開発スピードアップ
- ・各地域の顧客ニーズを把握し、開発・販売シナジー創出、グローバル拡販推進

TPMS (タイヤ空気圧監視システム) とは

タイヤ空気圧の適正化で自動車の安全・安心とエコドライブに貢献

◆システム概要



◆空気圧適正維持のメリット

- 1.燃費向上
- 2.操縦安定性向上
- 3.タイヤ寿命向上
- 4.バーストの危険性低減

高速道路でのJAF出動理由は
空気圧低下によるタイヤトラブルが最多！



空気不足をドライバーにお知らせ、
安全走行、および燃費悪化防止をサポート



TPMS送信機

■空気圧不足による燃費の悪化率

空気圧50kPa不足の場合
(車種：排気量2000ccの乗用車)

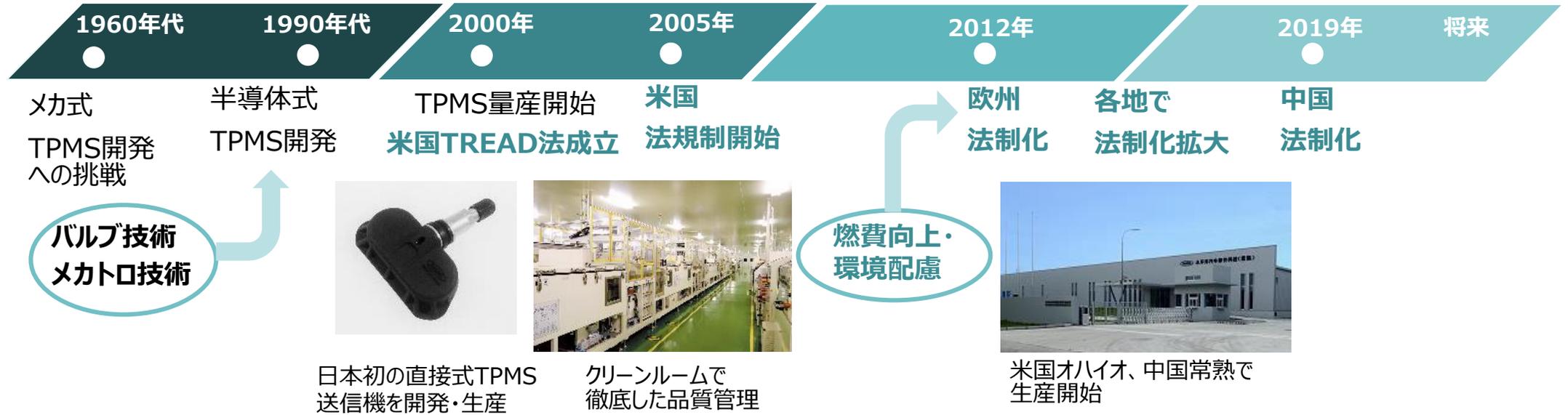


出典：財省エネルギーセンターJAF

TPMS : 当社開発と各国法制化経緯



バルブ・制御機器・電子機器事業で培った技術をベースにTPMSを開発

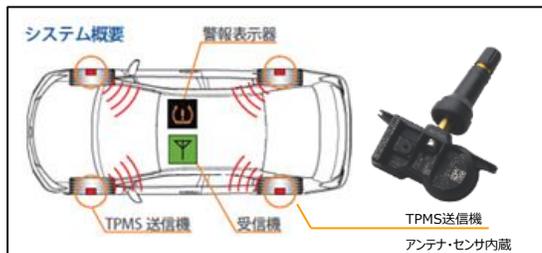


- | | | | |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高機能バルブとして、タイヤ内空気圧の測定を目指し開発開始 ・量産開始時にはランフラットタイヤ向けに採用 | <ul style="list-style-type: none"> ・米国でタイヤバーストによる自動車横転死亡事故が多発し「TREAD法」が成立 ・米国で新車への装着が義務化される | <ul style="list-style-type: none"> ・高品質で顧客の信頼を獲得 ・各国法制化の拡がりに伴い売上拡大 ・グローバルで生産拠点整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本法制化を見据え、高品質維持とコスト競争力強化 ・アフター向け、二輪向け、商用車向けなど、バリエーション展開 |
|---|---|---|---|

コア技術を活かした新製品開発で社会課題の解決をめざす

モニタリング・無線技術を応用した新製品開発

状態モニタリング
需要



TPMSコア技術

《活用分野》

食品輸送

※HACCP管理手法

医薬品輸送

※GDPガイドライン

畜産業界

IT・産業界

センシング技術を応用した新製品

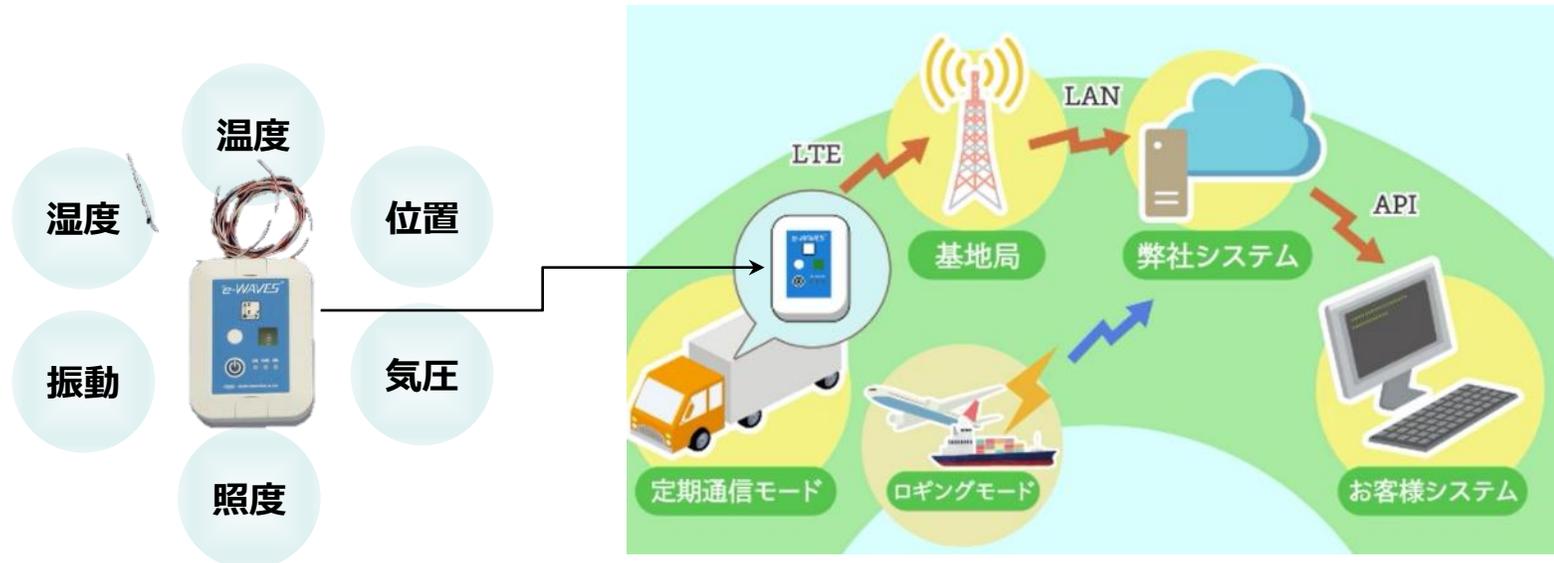
物流ソリューションに新たな価値を提供

マルチセンシングロガー「e-WAVES」

- ・温度、湿度、振動、位置、気圧、照度をセンシング
- ・食品、医薬品輸送時の状況をリアルタイムで確認



データはLTE 網を利用しクラウドに格納



「e-WAVES」

・製品紹介ホームページ：<https://www.pacific-ind.co.jp/iot/ewaves/>

- ・タイヤの空気圧を検知するセンシング技術や無線通信技術、バッテリーを長持ちさせる制御技術を応用
- ・マイナス80度～プラス80度まで測定可能
- ・液体窒素が気化するマイナス196度まで測定可能な装置も開発中

センシング技術を応用した新製品

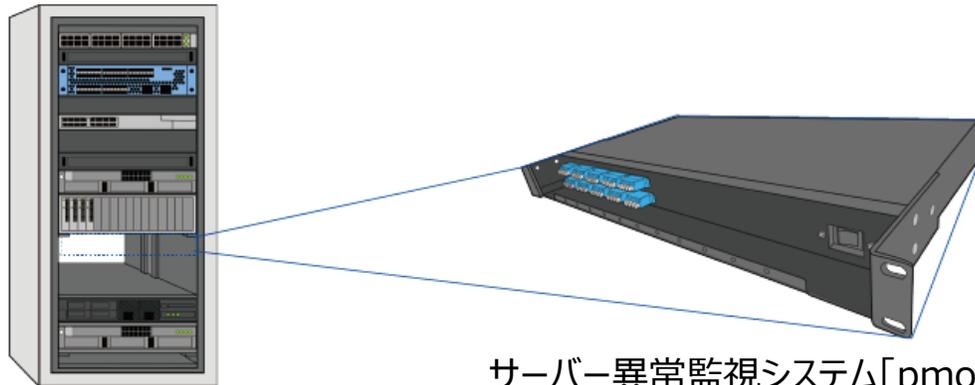


データセンター拡大に伴うニーズ増加に向け、拡販に注力

サーバー異常監視システム「pmoni」

- ・ネットワーク機器／設備の「光」を直接監視可能
- ・LED目視巡回の自動化による工数低減、

障害復旧リードタイム短縮が可能な見守りシステム



サーバー異常監視システム「pmoni」



24時間監視



監視ログ機能
(pmoni本体内蔵)



海外対応
(100-240V 対応)



新しいサービスの提供
例) サーバラックの開閉履歴



死活監視ツール
(ping 監視等) の
弱点を埋める

- ・ネットワーク機器のパーツ異常発見
例) ハードディスク、送風ファン
- ・ツール監視非対応機器
例) ハブ、モデム、UPS装置

1. 会社概要・歴史
2. 成長を支える技術
- 3. 競争力の源泉となる人財**
4. サステナビリティ経営

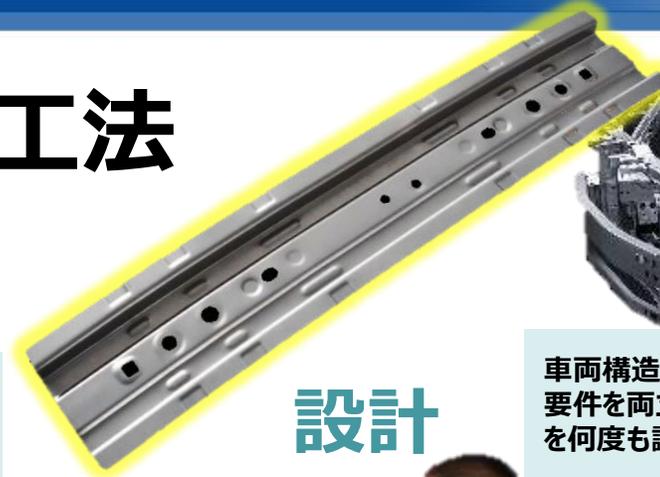
超ハイテン 冷間プレス工法 1470MPaを実現

型構造を見直したことにより
CAEとの一致率が向上、材料
差による製品精度のバラつきも
抑制されていることを確認

CAE解析やテスト型トライで
検証を行い、新工法と既存
の対策技術の組み合わせで
スプリングバックを低減



新工法ストレスリバー
工法を実現！



設計



車両構造要件と成形
要件を両立させる方法
を何度も議論

初期から設計要件を全て織り込み

日頃から摩耗個所など
狙いを定め、予備準備
や取替時期を見極め

金型保全

急所を見極め、ロスを最小化



生産

断面のカジリやワレの
予兆をいち早くつかみ、
金型メンテナンスに



製品の変化をいち早く捉える

構想段階から提案・
解析に取り組み、強み
の超ハイテン技術をPR

営業

営技一体の構造提案で、
原価&CO2低減に貢献



トップシェア製品を支える人・技能伝承



カイゼンファクトリー あらゆる工程で徹底カイゼン



高シェア品目であるオイルパンを
工程スルーで原価低減活動を推進。
工数低減、省人、品質改善、在庫低減、
少人化、資源節約などあらゆる角度から
徹底的にこだわった改善を行いました。

プレス
工程



集出荷



溶接



塗装



東大垣工場
第3工場

Point
1

吊りかけハンガー究極の1種類化

5種類のハンガーを
1種類に集約
省スペース、工数低減



Point
2

AIで正確に品番を認識



AI技術で品番認識を代行し、かんばんを代用
複数AIの同時判定で、認識率100%を実現



Point
3

塗装ストアの投入・集荷自動化



在庫を減らし、
完成品の投入と、
集荷を自動化
自動化設備と
システムも内製

Point
4

後工程の要望で14種類に増えた出荷容器を、
内材の工夫で6種類まで削減



14種類から6種類に削減！



トップシェア製品を支える人・技能伝承



美濃工場における 技能伝承

タイヤバルブ・バルブコアを一貫生産する美濃工場は操業開始から44年が経過。50年を経過した設備もあり保全技能によるメンテナンスで品質を確保しています。PACIFICブランドを受け継ぐため、ベテランから若手へ、専門的な匠の技の技能伝承に取り組んでいます。



2. 線径0.3ミリの寸法調整

芯金と切断バイトの位置決めが重要！

手回しによる感覚が重要ですね！



バルブコア構成部品のばねを巻く「ばね巻き機」寸法、形状が悪いと機能不良となるため目視と手回しによる調整で、高い精度を要する技能

3. 砥石に当てる角度が命

「半月錐（きり）」と呼ばれる切削工具を砥石で研磨。刃先の角度、センター位置などが非常に難しく、熟練を要する技能

砥石に当てる角度を少しずつ変化させながら研磨する事！

感覚がとても大切で何度も訓練が必要ですね！



4. 軸先を均等に整える熟練の技

軸を落とさない！
こじらない！
軸をこじった場合修理が困難です

細かく叩く力も重要ですね！

軸カシメはハンマーで軸先端をつぶして固定する重要な作業
軸を曲げず、均等に整える熟練した技能を要する



1. 手作業による精密仕上げ

切削設備のスライド部分に「きさげ」を施す重要なメンテナンス技能
ノミ状のスクレーパー工具を用いて手仕上げで削る



未来を託すぞ。

頑張ります。



誰もが活躍、 カイゼンできる現場力

相互信頼をベースに、丁寧に教育を重ね、個の持つ力をチームワークで引き出す取り組みを推進中。それぞれの強み、よさを生かし、共有し、太平洋グループワンチームでものづくり改革を加速しています。



自ら考え、動ける現場になる為の3つのポイント

1. まねる

技能員が積極的に外に出て、いい事例をまねることを奨励

2. 教える

一歩太平洋の敷地に入れば、外国人・外部人材もチームの一員として、多言語で教育

3. 見せる

ビジュアル化することで、すぐに、誰でも、よくわかるよう、ITデバイスで動画を共有



外のいい事例を学ぶことで新しい発想が生まれ、改善力が向上しました。



理解できる言葉で説明を聞くと、不安が解消し仕事はかどるようになりました。



新しいツールを取り入れることで、今までの限界を突破する契機となりました。

ダイバーシティ&インクルージョン

若手をリーダーに抜擢



若手社員をリーダーに抜擢自由に意見を言い合える風土を醸成し、自身の成長と現場力向上に。

女性の活躍



子育てしつつ、きめ細かな仕事で長年現場を支えてきた女性の活躍も重要



外国人、外部人材もワンチームで

外国人も重要な戦力であり、共にものづくり力を高めていく仲間。日本語と併記した資料、理解しやすい教育で、働きやすい環境づくりを推進。

カイゼンの風土づくり

管理職による風土醸成



意見の言いやすい風土を醸成するマネジメント力が重要。リーダーがメンバーを支えながら信頼関係を構築。

朝会の活性化



毎日朝会を実施。お互い納得できるまで議論を行う。

1. 会社概要・歴史
2. 成長を支える技術
3. 競争力の源泉となる人財
4. **サステナビリティ経営**

長期ビジョンと関連する、4つのテーマと15のマテリアリティを特定

Vision : 持続可能な社会に向けて、コア技術を活かし、新事業・新製品・新技術を提供し続ける企業

■ 製品を通じた社会・顧客課題の解決

持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献
モビリティの安全性向上
環境配慮製品の開発



■ 環境負荷の極小化

気候変動の緩和および適応
持続可能な資源の利用
水資源の保全



Vision : ステークホルダーに信頼され、地域社会に根ざし、共存・発展できる真のGLOCAL企業

■ ステークホルダーとの信頼醸成

企業倫理・コンプライアンス
責任ある調達
顧客満足度の向上
地域社会の発展



Vision : 社員の新しい発想や挑戦を大切にし、仕事と生活の調和が実感できる企業

■ 人財の尊重と活躍

人権の尊重
安定した雇用と働きやすい職場
従業員の安全と健康
人財育成と挑戦できる風土の醸成
ダイバーシティ&インクルージョン



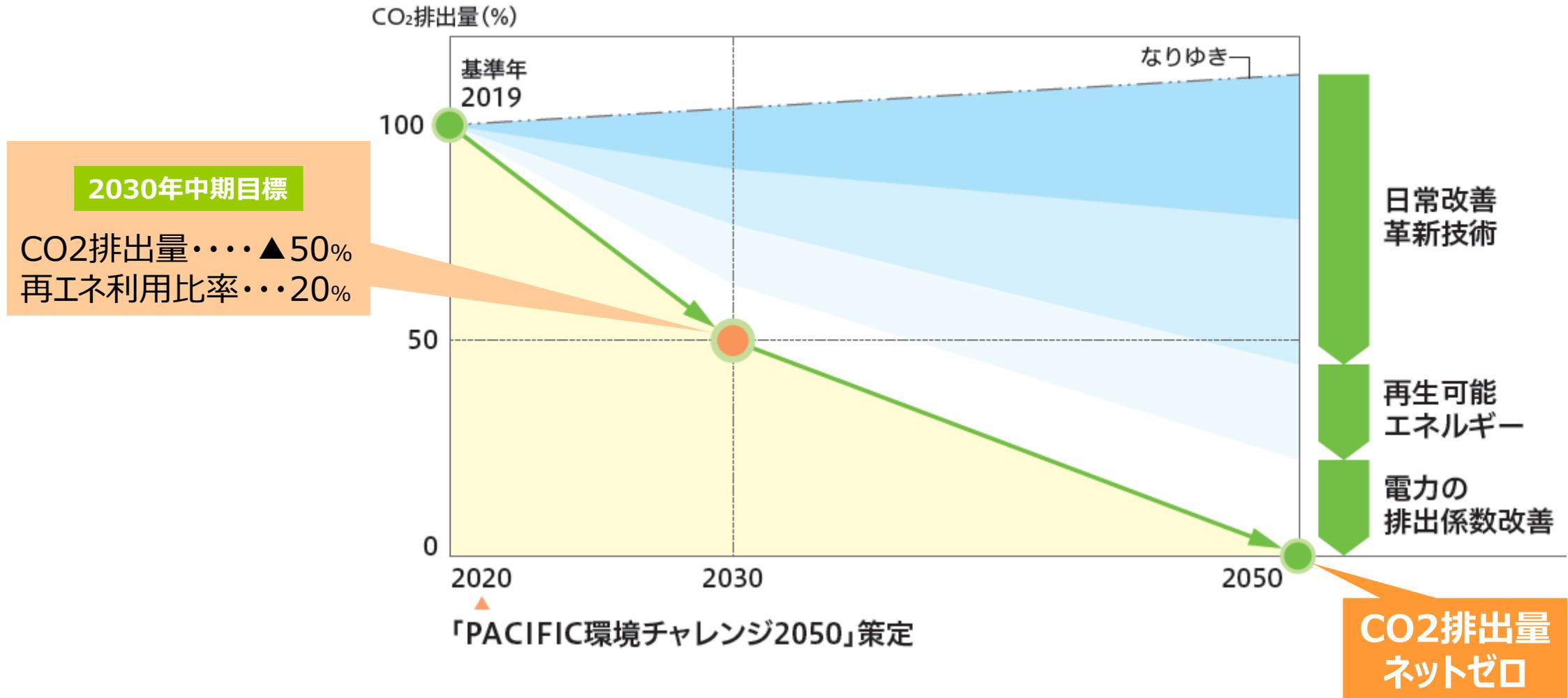
環境負荷極小化の取組み

「PACIFIC環境チャレンジ2050」でマイルストーンを定めて活動を推進

	マテリアリティ	SDGs	項目	現状 (20年度実績)	2030年 目標	2050年 目標
カーボンニュートラル	気候変動の 緩和及び適応	 	CO ₂ 排出量	85.8(k _t)	2019年度比 50%削減	ネットゼロ
環境負荷極小化	持続可能な 資源の利用		廃棄物排出量	2,539(t)	2019年度比 国内60%削減 海外30%削減	極小化
	水資源の保全		水使用量	1,645(k _m ³)	適正利用	極小化

カーボンニュートラルに向けた計画

ライフサイクル全体でカーボンニュートラルの実現に向けて取り組みを強化



カーボンニュートラルに向けた取組み



3つの切り口でエネルギー低減策を洗い出し、CO2排出量削減目標達成をめざす

日常改善活動による省エネ



小型貫流型ボイラー導入により、燃料を重油から都市ガスへ転換

CO2排出量削減量
年間：約680t

高効率設備導入による省エネ



電力受電を特別高圧化によりCO2排出量削減

CO2排出量削減量
年間：約1,000t



カチオン電着塗装設備のコンパクト化により、省エネと生産性向上

CO2排出量削減量
年間：約320t

再生可能エネルギーの活用



高効率の建物仕様、設備の導入
物流システム効率化
再生可能エネルギー導入

CO2フリー電力の積極導入

取組み内容、KPIなど、積極的な情報開示を推進

サステナビリティレポート



- ・サステナビリティレポート2021発行
<https://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>

CDP気候変動評価



- 2年連続
- ・リーダーシップレベル「A-」獲得
- ・サプライヤーエンゲージメント評価「リーダーボード」選出

非財務情報開示



- ・TCFD賛同
- ・気候変動影響の戦略への統合と情報開示を推進
- ・各種情報のホームページ開示
- ・ウェブサイトリニューアル予定
- ・Ecovadisメダル：「ブロンズ」認定

人権の尊重を最優先し、健康経営を推進

人権方針

太平洋工業グループとしての方針、
管理運用方法の原則

1. 基本方針
2. 人権リスクの把握・評価・防止
3. 救済
4. 教育
5. 定期的な見直し・改善

人権デューデリジェンス・救済



「行動ガイドライン」

「仕入先サステナビリティガイドライン」

健康宣言

健康経営で、いきいきと働き、企業も成長できる好循環へ！

太平洋工業グループ 健康宣言

当社は、社員の健康と安全を“ものづくり”の原点と考え、会社と社員の持続的成長のために、社員とご家族の心身の健康維持・増進と働きやすい職場環境づくりに取り組みます。ブランドスローガンにある「思いをこめて、あしたをつくる」ために、新しい発想や挑戦を大切に、仕事と生活の調和が実感でき、健全でいきいきと働ける会社づくりに努めることを宣言します。

2021年9月



次世代人財の育成、社会貢献



次世代人財の育成、科学技術の振興と地域産業の発展に寄与

小川科学技術財団



岐阜県内の研究者に助成を行い、
科学技術の振興と発展に寄与

設立からの助成件数：503件
累計助成額：2.1億円

高校生向け環境講座



大垣市と連携し「環境SDGs
おおがき未来講座」を開催

次代を担う高校生へ、自動車
産業のカーボンニュートラルの取り
組みを中心に、対話形式で実施

子ども食堂支援



子ども食堂運営や、学習支援など
に取り組む市民団体を支援

寄付や災害用備蓄食糧、文房具
寄贈などの支援を、継続的に実施



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow